

北海道知事 殿

学校法人 電子開発学園

理事長 松尾 泰

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	北海道情報専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・ <input checked="" type="checkbox"/> 専門学校)
大学等の所在地	北海道札幌市白石区菊水 6 条 3 丁目 4-28
学長又は校長の氏名	校長 関 信仁
設置者の名称	学校法人 電子開発学園
設置者の主たる事務所の所在地	〒069-8585 北海道江別市西野幌 59 番 2
設置者の代表者の氏名	理事長 松尾 泰
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.hcs.ac.jp/syugakushien

大学等における修学の支援に関する法律(以下「大学等修学支援法」という。)第 7 条第 1 項の確認を申請します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

- この申請書(添付書類を含む。)の記載内容は、事実と相違ありません。
- 確認を受けた大学等は、大学等修学支援法に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。
- 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第 7 条第 2 項第 3 号及び第 4 号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	法人本部・井上智雄	011-385-8433	inoue@do-johodai.ac.jp
第2号の1	事務部・徳永雅生	011-831-5511	tokunaga@hcs.ac.jp
第2号の2	法人本部・井上智雄	011-385-8433	inoue@do-johodai.ac.jp
第2号の3	事務部・徳永雅生	011-831-5511	tokunaga@hcs.ac.jp
第2号の4	事務部・徳永雅生	011-831-5511	tokunaga@hcs.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点(☑)を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事(役員)名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	北海道情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	3,956,386,929円	3,715,147,566円	241,239,363円
申請2年度前の決算	3,800,910,006円	3,748,650,056円	52,259,950円
申請3年度前の決算	3,913,090,039円	3,764,250,227円	148,839,812円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	8,172,190,689円	1,093,786,925円	7,078,403,764円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	1410人	883人	62%
前年度	1410人	833人	59%
前々年度	1410人	883人	62%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	資産の内容	申請前年度の決算に おける金額

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	負債の内容	申請前年度の決算に おける金額

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	北海道情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	大学併修科	夜・通信	710	320	
	システムエンジニア科	夜・通信	390	240	
	ゲームクリエイタ科	夜・通信	610	240	
	ITシステム科	夜・通信	200	160	
	ゲームWeb科	夜・通信	250	160	
	テクニカルエンジニア科	夜・通信	80	80	
商業実務専門課程	ビジネス科	夜・通信	210	160	
	情報プロセス科	夜・通信	240	80	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校ホームページにて公表 https://www.hcs.ac.jp/syllabus

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにおいて公開 https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/pdf/yakusyokuin2019.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2018.4.1～ 2020.3.31	コンプライアンス
非常勤	社会福祉法人 役員	2018.4.1～ 2020.3.31	地域貢献
(備考) 外部理事 総数 5名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.hcs.ac.jp/syllabus
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。</p> <p>また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学ではGPAを導入していないものの、5段階の成績評価（秀・優・良・可・不可）を設けることで客観的な指標としている。これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。（ただし、平成28(2016)年度以前の入学生は4段階の成績評価（優・良・可・不可）である。）</p> <p>なお、成績評価については半期毎に通知する学業成績票に記載し、各自の評価平均点を示している。また、対象学科における「学年平均点と偏差値」を記載しており、学生は自身の概ねの位置（上位からの割合）を把握できる。学科・学年内の順位については、希望があれば個人毎に開示する。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.hcs.ac.jp/information</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><卒業の認定方針></p> <p>教育理念及び目標とする人材像に基づき、実践的なIT人材として必要な以下の能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の科目を履修した学生に対して卒業を認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システム開発の知識と技術を修得し問題解決に活用できる ・コミュニケーション力を持ち、他者と協働できる ・倫理観を持って行動できる <p><実施に係る取組></p> <p>「修業年限以上在籍」については主に出席状況、「所定の科目を履修」については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ、問題がある場合は適宜フォローを行いながら進級・卒業指導を行い、年度末には「進級・卒業判定会議」を行って、進級・卒業要件を満たしているか、最終判断を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.hcs.ac.jp/information</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	北海道情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline.php
収支計算書又は損益計算書	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline.php
財産目録	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline.php
事業報告書	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline.php
監事による監査報告（書）	https://www.do-johodai.ac.jp/guidance/edc-outline.php

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	大学併修科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3740 単位時間/単位	2390 単位時間 /単位	1050 単位時間 /単位	300 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		153人	0人	6人	0人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。</p> <p>また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。</p> <p>①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
43人 (100%)	1人 (2.3%)	42人 (97.7%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） ITコンサルティングやネットビジネスにかかわるIT系企業をはじめとして一般企業への就職も果たしている。</p>			
<p>（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績のほか、各種コンテストなどへの参加実績がある。</p> <p>【主な取得資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 情報セキュリティマネジメント試験（国家資格） ・ 応用情報技術者試験（国家資格） ・ 情報処理安全確保支援士試験（国家資格） ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J検） ・ Microsoft Office Specialist（Microsoft社） <p>など多数取得</p> <p>【コンテスト等の参加・受賞実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「北海道起業家甲子園2018」優秀賞受賞 主催：総務省北海道総合通信局 ・ 第15回「ビジネスプロデュースコンペティション」グランプリ受賞 主催：一般社団法人全国専門学校情報教育協会 ・ 「ビジネスモデル発見&発表会北海道大会2018」参加 主催：ICTビジネス研究会 ・ 「北海道学生アプリコンテスト2019」応募 主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会（HMCC） <p>など多数参加</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
152人	1人	0.66%
<p>（中途退学の主な理由） 進路変更が主な理由である。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学年主任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	システムエンジニア科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2980 単位時間/単位	1560 単位時間 /単位	1270 単位時間 /単位	150 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
390人		233人	0人	7人	0人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。</p>						
成績評価の基準・方法						
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。</p> <p>また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。</p>						
卒業・進級の認定基準						
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。</p> <p>①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。</p>						
学修支援等						
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>						

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
80人 (100%)	1人 (1.25%)	78人 (97.5%)	1人 (1.25%)
<p>（主な就職、業界等） システムインテグレータやソフトウェア開発を手掛ける IT 系企業をはじめとして一般企業への就職も果たしている。</p>			
<p>（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績のほか、各種コンテストなどへの参加実績がある。</p> <p>【主な取得資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 情報セキュリティマネジメント試験（国家資格） ・ 応用情報技術者試験（国家資格） ・ 情報処理安全確保支援士試験（国家資格） ・ データベーススペシャリスト試験（国家資格） ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J 検） ・ 情報セキュリティ技術認定基礎コース [CSBM]（SEA/J） <p>など多数取得</p> <p>【コンテスト等の参加・受賞実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「北海道起業家甲子園 2018」最優秀賞受賞（全国大会出場） 主催：総務省北海道総合通信局 ・ 「セキュリティコンテスト MBSD Cybersecurity Challenges」出場 主催：三井物産セキュアディレクション株式会社 ・ 「北海道学生アプリコンテスト 2019」企業賞受賞 主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会（HMCC） <p>など多数参加</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
222 人	3 人	1.35%
<p>（中途退学の主な理由） 進路変更等が主な理由である。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学年主任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	I T システム科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 1900 単位時間/単位	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼		1110 単位時間 /単位	640 単位時間 /単位	150 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
280人	168人	0人	4人	0人	4人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。</p> <p>また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。</p> <p>①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
62人 (100%)	2人 (3.2%)	59人 (95.2%)	1人 (1.6%)
<p>（主な就職、業界等） ソフトウェア開発やコンピュータシステムの運用・保守を手掛ける IT 系企業をはじめとして一般企業への就職も果たしている。</p>			
<p>（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績のほか、コンテストへの参加実績がある。</p> <p>【主な取得資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 情報セキュリティマネジメント試験（国家資格） ・ 応用情報技術者試験（国家資格） ・ 情報処理安全確保支援士試験（国家資格） ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J 検） ・ Microsoft Office Specialist（Microsoft 社） <p>など多数取得</p> <p>【コンテスト等の参加・受賞実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「北海道学生アプリコンテスト 2019」応募 主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会（HMCC） 			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
158 人	6 人	3.8%
<p>（中途退学の主な理由） 病気、経済的理由、進路変更等が主な理由である。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学年主任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	ゲームクリエイタ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2980 単位時間/単位	1430 単位時間 /単位	1140 単位時間 /単位	410 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		201人	0人	6人	0人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。</p>						
成績評価の基準・方法						
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。</p> <p>また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。</p>						
卒業・進級の認定基準						
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。</p> <p>①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。</p>						
学修支援等						
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>						

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27人 (100%)	0人 (0%)	27人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） ゲーム開発などのクリエイター系企業、システム開発や運用・保守のIT系企業が主な就職先であるとともに一般企業への就職も果たしている。</p>			
<p>（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績のほか、各種コンテストなどへの参加実績がある。</p> <p>【主な取得資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 応用情報技術者試験（国家資格） ・ 情報処理安全確保支援士試験（国家資格） ・ マルチメディア検定 エキスパート（CG-ARTS） ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J検） ・ 簿記検定試験（日本商工会議所） ・ Microsoft Office Specialist（Microsoft社） <p>など多数取得</p> <p>【コンテスト等の参加・受賞実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第7回「全国専門学校ゲームコンペティション」審査員特別賞受賞 主催：一般社団法人 全国専門学校情報教育協会 ・ 第12回福岡ゲームコンテスト「GFF AWARD 2019」ゲームソフト部門 優秀賞受賞 主催、福岡ゲーム産業振興機構（GFF、九州大学、福岡市） ・ 日本ゲーム大賞2018「アマチュア部門」応募 主催：一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会 ・ 「東京ゲームショウ2018」出展 ・ 「北海道学生アプリコンテスト2019」応募 北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会（HMCC） <p>など多数参加</p>			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
155人	7人	4.5%
<p>（中途退学の主な理由） 病気、経済的理由、進路変更等が主な理由である。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学年主任、学科長による電話等によるフォローを継続的に</p>		

実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	ゲームWeb科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1920 単位時間/単位	1020 単位時間 /単位	660 単位時間 /単位	240 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		81人	0人	2人	0人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。</p>						
成績評価の基準・方法						
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。</p> <p>また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。</p>						
卒業・進級の認定基準						
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。</p> <p>①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。</p>						
学修支援等						
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>						

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
35人 (100%)	8人 (22.85%)	26人 (74.3%)	1人 (2.85%)
<p>（主な就職、業界等） Webアプリケーション開発などのクリエイター系企業やシステム開発や運用のIT系企業が主な就職先であるとともに一般企業への就職も果たしている。</p>			
<p>（就職指導内容） 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理技術者試験をはじめとする各種検定試験の取得実績のほか、各種コンテストなどへの参加実績がある。</p> <p>【主な取得資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本情報技術者試験（国家資格） ・ 情報セキュリティマネジメント試験（国家資格） ・ 応用情報技術者試験（国家資格） ・ マルチメディア検定 エキスパート（CG-ARTS） ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J検） ・ Microsoft Office Specialist（Microsoft社） <p>など多数取得</p> <p>【コンテスト等の参加・受賞実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「MEMBERS CUP 2019」参加 主催：株式会社メンバーズ ・ 「北海道学生アプリコンテスト 2019」参加 主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会（HMCC） ・ 第7回「全国専門学校ゲームコンペティション」応募 主催：一般社団法人 全国専門学校情報教育協会 ・ 日本ゲーム大賞 2018「アマチュア部門」応募 主催：一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会 <p>など多数参加</p>			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80人	1人	1.25%
<p>（中途退学の主な理由） 病気が主な理由である。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 長期欠席者には、担任、学年主任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	テクニカルエンジニア 科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 860 単位時間/単位	開設している授業の種類				
	夜		講義	演習	実習	実験	実技
1年			590 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	90 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		0人	0人	1人	0人	1人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。</p> <p>また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。</p> <p>①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら指導を行い、卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 在籍者がいなかった。			
(就職指導内容) なし			
(主な学修成果（資格・検定等）) なし			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 在籍者がいなかった。		
(中退防止・中退者支援のための取組) なし		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年		1910 単位時間/単位	960 単位時間 /単位	590 単位時間 /単位	360 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		42人	0人	2人	0人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。</p> <p>また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。</p> <p>①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら進級指導を行う。年度末には「進級認定会議」を実施して、出席状況と成績評価状況の基準を満たしているか判断している。卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
35人 (100%)	0人 (0%)	34人 (97.1%)	1人 (2.9%)
<p>(主な就職、業界等) 公務員や様々な業種の一般企業へ就職を果たしている。</p>			
<p>(就職指導内容) 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）) 簿記検定試験をはじめとする各種検定試験の取得実績のほか、各種コンテストなどへの参加実績がある。</p> <p>【主な取得資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記検定試験（日本商工会議所） ・ 情報検定 情報活用試験（J検） ・ Microsoft Office Specialist（Microsoft社） ・ ビジネス能力検定 ジョブパス（B検） ・ 秘書検定（実務技能検定協会） <p>など多数取得</p> <p>【コンテスト等の参加・受賞実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ビジネスモデル発見&発表会北海道大会 2018」最高賞受賞（全国大会出場） 主催：ICTビジネス研究会 ・ 「復興ビジネスコンテスト 2018」参加（最終審査選考） 主催：復興庁 ・ 第10回「販促会議企画コンペティション」応募 主催：株式会社宣伝会議 <p>など多数参加</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59人	2人	3.4%
<p>(中途退学の主な理由) 進路変更等が主な理由である。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 長期欠席者には、担任、学年主任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		専門課程	情報プロセス科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	900 単位時間/単位	420 単位時間 /単位	420 単位時間 /単位	60 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		5人	0人	1人	0人	1人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直し、新設や廃止を決定している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは、学生に対してホームページ上に公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。</p> <p>また、試験、レポートや課題等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては学生の手引きに明記することで、全学生へ周知している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定には、①「学科ごとに定められた所定の年限以上在籍すること」、②「学科ごとに定められた所定の科目を履修すること」としており、これらについては学生の手引きに記載して全学生へ配布・公表している。</p> <p>①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、半期毎に学生・保護者へ通知のうえ問題がある場合は適宜フォローしながら指導を行い、卒業年度末には「卒業認定会議」を実施して、①②の卒業要件を満たしているかの最終判断を行っている。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7人 (100%)	1人 (14.3%)	3人 (42.85%)	3人 (42.85%)
(主な就職、業界等) IT系企業や一般企業（不動産管理業）への就職を果たしている。			
(就職指導内容) 保護者対象就職説明会、業界セミナー、スーツ・頭髪講座、校内での会社説明会、担任講師や就職指導課職員による個別のキャリアカウンセリングも実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 情報処理系の検定試験の取得実績がある。 【取得資格】 ・ 情報検定 情報活用試験、情報システム試験（J検）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 退学者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 長期欠席者には、担任、学年主任、学科長による電話等によるフォローを継続的に実施している。また、中退防止にあたり、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングの実施やハラスメント相談窓口を設置している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
大学併修 科	100,000 円	364,000 円	420,000 円	
システ ムエンジ ニア科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
ゲーム クリエイ タ科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
I Tシ ステム科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
ゲーム We b科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
テク ニカルエ ンジニア 科	100,000 円	384,000 円	266,000 円	
情報 プロセス 科	150,000 円	420,000 円	364,000 円	
ビジネ ス科	150,000 円	420,000 円	364,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hcs.ac.jp/hyouka		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 卒業生、企業及び学識経験者から構成される委員が、学校の自己評価結果をもとに、教育理念と目的に沿った人材育成がなされ且つ健全な学校運営が行われているか評価し、その評価結果を教育活動その他の学校運営改善等に活かし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社社員	平成 30 年 7 月 12 日～ 平成 31 年 3 月 31 日	企業委員
元学校法人理事	平成 30 年 7 月 12 日～ 平成 31 年 3 月 31 日	有識者委員

町内会役員	平成 30 年 7 月 12 日～ 平成 31 年 3 月 31 日	地域住民委員
株式会社社員	平成 30 年 7 月 12 日～ 平成 31 年 3 月 31 日	卒業生委員
学校法人職員	平成 30 年 7 月 12 日～ 平成 31 年 3 月 31 日	卒業生委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hcs.ac.jp/information		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hcs.ac.jp/
--